

中期 第6学年前半①	単元名 : He is famous. She is great. Unit-3 (We Can!2) 【1/5 時間】
	主となる指導項目 : 音声コミュニケーション

本時のねらい

- 自分や友達について特徴を話したり、聞いて内容を理解したりすることができる。

【収録されている活動 (◆:本時のねらいにつながる主となる活動)】

【好きな食べ物をたずね合おう】

HRT と ALT のやり取りを聞いたり、友達同士でやり取りをしたりしながら、既習表現 (I like ~.) の復習をさせます



【好きな食べ物をたずね合おう (Small Talk)】

- ☆本時の言語材料の1つである I like~.の表現を復習するため、好きな食べ物を尋ね合う。
- ☆長く会話を続けるためにこれまでに学習したどんな表現が使えるかを考えさせ、積極的に使うよう促す。
- * 会話をつなげていく表現
- 例) "How about you?" , "Me too!" , "Why?" など

【単元全体の見通しをもつ】

HRTとALTのデモンストレーションや児童とのやり取りを通して、単元全体の活動への見通しや意欲をもたせます



【単元全体の見通しをもつ】

- ☆単元の最後の活動として、人物当てクイズ (Who's this?クイズ) をすることを確認し、今後の活動への意欲をもたせる。
- ☆デモンストレーションでは、口頭だけでなく文字も示すことで、書く活動や読む活動へのつながりをもたせる。

＜Who's this?クイズについて＞

- ・HRT の出題した問題が分からない場合の手立ても伝える。
- 例) T「わからない時は、どうしたらいい?」と声をかけて、「Hint, please.」を使う事を促す。
- ・活動に対する意欲をもたせることが目的であるため、有名人クイズやクラスの児童を紹介するクイズでもよい。児童が知っていて、「答えたい!」と思える人物を取り上げるのがよい。

【表現に慣れ親しもう】

キーワードゲーム等の活動を通して、繰り返し聞いたり言ったりし単語や表現に慣れ親しませます



【表現に慣れ親しもう (キーワードゲーム)】

- ☆慣れてきたら、「I like~.」 「I want~.」などの文で言うことで、人物当てクイズへのつながりをもたせる。
- ☆絵カードに添えられた文字を見慣れることで、書く活動への意識づけとする。

【表現に慣れ親しもう (ミッシングゲーム)】

- ☆既習の内容 (教科の言い方) を思い出させ、慣れ親しませる。
- ☆ゲームに使う既習単語を提示する際の工夫。
- 例) "What subject do you like?"と児童に尋ねながら提示する。
- ☆児童にも出題役に挑戦させることで、クラスルームイングリッシュを生かせる場面を提供できることになる。

◆【インタビュー活動】

インタビュー活動を通して、児童同士で繰り返し言ったり聞いたりすることで、本時で学習する表現の定着を図ります



【インタビュー活動】

- ☆自分の好きなものを選んで自己紹介に使う (「本当の事」を用いて会話することが大切)。
- ☆HRT と ALT とのデモンストレーションを見せることは、以下の点で効果的である。
- ① 教師にとって、日本語での過剰な説明を省くことができる。
- ② 児童にとって、英語表現だけで活動の内容や手順、ルールを理解することができる。

* あいさつ、振り返り等は省略しています